

科目名	ことばの科学			ナンバリング	GEN112	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	西村康平	担当教員					

授業の概要	人間は生物として生まれながらにして言語を獲得し使用する能力を持っており、世界の自然言語の基礎的な部分は共通しているとする「普遍文法」の考えに基づき、言語の様々な特徴について具体的な例を分析しながら議論、考察する。言語を科学的に分析する方法論の基礎について学び、言語の様々な文法的側面に関して、例を挙げながら議論できる能力を身につける。また、特に自身の母語について具体例を挙げながら分析することを通して、ものごとを客観的に観察し論理的に考察・議論する能力を養う。						
到達目標	1) 言語の科学的な分析における基本的な考え方、重要な概念について説明することができる。 2) 言語に関する様々な特徴に関して、具体的な例を挙げながら説明、議論できる能力を身につける。 3) ものごとを客観的に観察し、論理的に考察・議論できる能力を身につける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	各回のテーマについて言語のデータ、特に自身の母語についてのデータを積極的に探し、考察することでより理解が深まる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
言語の科学的な分析における基本的な考え方、重要な概念、言語に関する様々な特徴に関して、適切な具体的な例を挙げることができる。	言語の科学的な分析における基本的な考え方、重要な概念、言語に関する様々な特徴に関して、適切な具体的な例を挙げながら論理的に説明、議論できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					60%
授業態度・授業への参加		○	○	○			40%

課題、評価のフィードバック	1) 中間テストおよび期末テストは、希望者には採点済みのものを返却する。 2) コメントシート記入による課題および質問については、次回の講義もしくはManab@IMUIにて解説する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	言語学の目的	人間の言語を分析する意義について考察する。	
	第2回	生得説と普遍文法(1)	自然言語の普遍性に関する基本的な考え方、概念を理解する。	
	第3回	生得説と普遍文法(2)	言語習得の段階における幼児の発話と原語の普遍性の関係について、具体例を観察しながら考察する。	
	第4回	生得説と普遍文法(3)	様々な言語におけるデータを観察しながら、言語の普遍性について考察する。	
	第5回	語の構造(1)	単語の分析における基本的な考え方について理解する。	
	第6回	語の構造(2)	単語を構成する形態素について、具体例を挙げながら考察する。	
	第7回	語の構造(3)	単語の形態構造について、具体例を挙げながら考察する。	
	第8回	まとめ(1)	講義の前半での議論を再確認し、中間テストを行う。	中間テスト
	第9回	発音の仕組み(1)	音声・音韻の分析における基本的な考え方について理解する。	
	第10回	発音の仕組み(2)	様々な言語における音声を聞き、調音の仕組みを理解する。	
	第11回	発音の仕組み(3)	様々な言語における音韻現象を観察し、考察する。	
	第12回	文と意味(1)	言語の文と意味の分析について基本的な考え方を理解する。	
	第13回	文と意味(2)	文を構成する要素について、具体的な例を挙げながら考察する。	
	第14回	文と意味(3)	文の構造について、具体的な例を挙げながら考察する。	
	第15回	まとめ(2)	講義の後半での議論についてまとめ、重要なポイントを再確認する。	
	試験	第9回から第15回の内容を範囲として、期末テストを実施する。該当範囲の内容、問題の考え方について確認しておくこと。		
授業の進め方		毎回の講義の最初に、前回のコメントシートへの返答を行う。出席者には講義中にも意見を求め、積極的な議論への参加を期待する。		
授業外学習の指示		予習: 次週までの課題として与えられた問題やトピックについて考察し、具体的な例を考えておく(90分)。 復習: 講義であつかった問題や概念について、理解を確認しておく(90分)。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考書	
参考URLなど	
その他	講義に関する連絡事項や講義内容の補足などをManab@IMUに掲載する。受講者は随時確認すること。